

図書館だより



大聖寺高校図書委員会発行
令和8年5月号(5.20)

ただいま閲覧室にて展示中です

『万緑の候』に読む【植物が面白い本】

新しい年度が始まって2ヶ月、図書館に足を運びましたか？6月中には新しい本がたくさん入ってくる予定です。リクエストも受け付けているので、気になる本がある人は図書館へどうぞ。

今回の図書館だよりでは、図書委員さんが「災いから変わってしまった世界(架空の未来)」を描いた小説を紹介してくれました。

普遍的なもの、変わってしまうもの…「架空の世界観」ではおさまらない作品かもしれませんね。図書館でぜひ手にとってみてください。

陰鬱とした春の訪れを味わってみよう

『春のこわいもの』川上未映子 新潮社

この本は、全六編の小説で構成された短編集です。とある感染症が爆発的な流行を起こす直前の、東京に住む人々を中心とした物語が収録されています。作品ごとに多様な語り手たちが登場しますが、その誰もがあることをきっかけに『悪夢』と形容されるような世界に巻き込まれていきます。そんな悪夢の中で彼ら彼女らがどのように考え、どのような道を選択するかを読み進めていくうちに、気づけば物語での出来事を自分事のように捉えてしまう…という不可思議さを内包した小説です。各作品の副題も実に秀逸で、一つの物語を読み終えた後にタイトルを見返すと、物語をより楽しめるような構造になっています。

加えて、この本の特筆すべき魅力は、露悪的でありながら人間という生き物への愛着を感じさせる筆致にあります。人間の仄暗い心情を抉り出すかのような執念を以て描かれた文章には、作者の溢れんばかりの悦びが込められており、読んでいて飽きさせない魔性の魅力をたたえています。

春の半ばで感じられるどことなく鬱屈とした雰囲気と、人間の生々しさを描いた作品の中で、自分の心に刺さる物語を見つけられるかもしれません。

ぜひ、この本を手にとってみてください！ (図書委員 2年生)

返却ポストが増えました

みなさんの教室の近くにも返却ポストが登場！
読み終わったらすぐにここに入れてしまおう！



リクエストも
できるよ



『イネという不思議な植物』稲垣 栄洋

植物の常識に照らすと、生態が少し奇妙なイネ。イネとは何か、なぜ人を魅了してやまないのだろう。

『植物たちの戦争』日本植物病理学会

陸上植物がこの世に誕生してから約5億年。「動けない植物」たちが、進化することで生み出した驚きの防御機構とは。

『植物たちに心はあるのか』田中修

植物生理学の専門家が植物たちの心に思いをめぐらす。

『美しい花言葉・花図鑑』二宮 孝嗣

花屋さんでよく目にする身近な花から、季節を代表する定番の花まで、春夏秋冬ごとに、238種の花と花言葉を掲載した1冊。

『植物たちの救世主』カルロス・マクダレラ

絶滅危惧植物を救う能力を身につけた著者は、この世で最後の1本となった木に種つけさせる。

『日本人は植物をどう利用してきたか』

中西弘樹

日本では食料や家屋にはもちろん、日常の道具や楽しみにも、植物は用いられてきた。

『ポタニカル』有間カオル

樹木医・雨宮芙蓉は、心療内科医・朝比奈の依頼で、奇妙な仕事をしている。小説。

『ストロベリーライフ』荻原浩

富士山麓の苺農家を舞台に新たな人生を模索する家族の物語。小説。

『植物化石 5億年の記憶』塚越実 監修

植物化石の写真集

『植物のたくらみ香り色の植物学』

有村源一郎 西原昌宏

動けない植物たちが進化の過程で編み出してきた、「色と香り」という、生きるための知恵に迫る一冊。

『世界で一番美しい種子図鑑』

電子顕微鏡を駆使した驚異の写真と科学エッセーで誘う、種子の世界。

『世界で一番美しい花粉図鑑』

神秘的な花粉の世界をビジュアルライズ、学問と芸術の垣根を超えた新しい写真図鑑。



世界は、究極のユートピアへ

『ハーモニー』伊藤計劃 早川書房

(あらすじ)

21世紀後半、〈大災禍〉と呼ばれる人類史上最悪の大混乱を経て、世界は大規模な福利厚生社会を作り上げていた。見せかけの優しさや倫理が横行し、かつての人間らしい娯楽や感覚が排除された“ユートピア”。そんな社会に憎悪を抱いた三人の少女は餓死することを選択した。――それから13年。死ねなかった少女・霧慧トアンは、再び世界を世紀の大混乱が襲うなかでかつて一人死んでしまったはずの少女・御冷ミア八のかけを見る。世紀の大混乱の真相を解明するため世界中を飛び回ったトアンがたどりついた答えとは、そして全てが終わった時人類がむかえた結末とは、…。

本作は緻密で複雑な世界観の作り込みがとても魅力的です。ロマンを感じられるのにどこか退屈な、【豊かで荒廃した世界】の表現が秀逸で、ページをめくるとに本の世界に引き込まれていきます。また本作が世にでたのは10年以上も前ですが、現代社会にも通じるアンチテーゼ要素がふんだんに含まれており、様々な角度から考えたり楽しんだりでき、とても読み応えがあります。

鬱々とした展開が本当にクセになる、すさまじいものを読みた人におすすめの一冊です!! (図書委員 2年生)

